

「メッセージフォーマット」参照に当って

(記載対象電文)

- ・別紙 2「対象電文一覧」を参照してください。
- ・各メッセージフォーマットの右下部には、業務処理大区分名および業務処理区分コード・帳票コードを記載しています（ただし、複数の帳票コードで同一のメッセージフォーマットを参照しているような場合には、その中で最も小さい帳票コードとその業務処理大区分名を記載しています）。

(記載の順序)

- ・業務処理大区分名（下表）毎に、業務処理区分コードの昇順、帳票コードの昇順に記載しています。
ただし、「共通エラー情報（E***-****）」および「共通受付済応答（Z***-****）」は、仮の業務処理大区分名「全業務共通」として分類しています。

＜業務処理大区分一覧＞	
業務処理大区分*	業務処理大区分名
-	全業務共通
00	基本処理関連
02	システム運営
05	パラメータ設定・変更
06	パラメータ照会
07	業務運営
21～24	当座勘定
25	当座勘定（同時決済口）
26	振替社債等DVP
27	外国為替円決済
28	準備預金
41	金融調節等入札連絡
42	国債売買
43	スワップ（財務省）
52	与信・担保共通
53	与信
54	担保受払等
72	国債発行
74	国債振替決済
75	国債DVP
97	業務共通

※ 業務処理区分コードの先頭2桁または帳票コードの先頭2桁。

(業務データルート要素、メッセージ識別要素の属性)

- ・業務データルート要素およびメッセージ識別要素には属性を設定します（受信電文の場合には必ず設定されます）。詳細は、「メッセージフォーマット仕様書（コア機能・共通編）」中、2. 1を参照してください。

(電文送受信時の留意点)

- ・電文（インスタンス）の作成および送受信に当たっては、メッセージフォーマットおよびスキーマを参照してください。
ISO電文の場合には、ISOメッセージのMDRおよびCBPR+（本文の表 I. 3-1 中、「準拠する電文規格」欄）も参照してください。

(メッセージフォーマットの記載事項)

非ISO電文（論理項目名にISOメッセージのMessage Itemを用いないケース）

項番	項目	説明
1	メッセージ名	メッセージ（送受信電文のうち、取引データ部）の名称。
2	種別	電文の種別。 「送信」「RES」「EX応答」「EX一方通知」
3	帳票コード／業務処理区分コード	送信電文の場合は業務処理区分コード、RES電文またはEX電文の場合は帳票コード。
4	名前空間	業務データにおけるBody要素の子要素以下の名前空間。業務データルート要素の属性および属性値として設定する。
5	メッセージのバージョン	メッセージの現在のバージョン情報（初期値は"01"）。メッセージ識別要素のver属性の属性値として設定する。
6	論理項目名	メッセージ上の入出力要素の名称（日銀ネット端末の画面・帳票上の項目名とは必ずしも一致しない）。
7	論理データ型	論理項目名に対応するデータ型。 「可変長半角」「可変長全角」「可変長全半角」「固定長半角」「固定長全角」「整数」「小数」「日付」
8	階層	メッセージ上のタグの階層。最上位層（"1"）は業務データルート要素(Gdata)。
9	物理項目名	論理項目名に対応する物理項目名。入出力要素のタグ名と同一となる。なお、入出力要素が複数階層で構成されている場合、最下層に対してのみ値を設定する。
10	物理データ型	物理項目名に対応するデータ型。
11	桁数（JUST、最小、最大）	設定可能な文字数。論理データ型が「整数」「小数」「日付」の場合は記載しない。 例：「JUST5」…5文字固定、「最小1、最大4」…1桁以上4桁以下
12	値範囲（最小、最大）	設定可能な値範囲。論理データ型が「整数」「小数」の場合のみ記載する（「9」は0～9の半角数字）。ただし、備考欄に「正常値の範囲」の記載がある場合は、当該記載に則って値を設定する。 例：「最小0、最大999」…0以上999以下
13	形式	取り得る文字形式。論理データ型が「固定長半角」の場合にのみ記載する。 「9」は半角数字、「X」はA～Z/a～z/0～9またはA～Z/0～9の半角英数字、「x」はa～z/0～9の半角英数字、その他は記号（半角ハイフンなど）を示す。詳細はスキーマ参照。
14	Or	同一階層に位置する複数の異なる入出力要素（波括弧で囲まれた要素）について、いずれか一つのみが設定可能であることを示す。
15	Mult.	入出力要素の出現回数。 ・[0..1]：入出力要素が0回または1回のみ出現（反復不可能な任意項目） ・[0..m]：入出力要素が0回以上m回以下まで出現可能（有限回反復可能な任意項目、m：1以上の整数） ・[0..n]：入出力要素が0回以上、出現可能（無制限に反復可能な任意項目） ・[1..1]：入出力要素が1回のみ出現（反復不可能な必須項目） ・[1..m]：入出力要素が1回以上m回以下まで出現可能（有限回反復可能な必須項目、m：1以上の整数） ・[1..n]：入出力要素が1回以上、出現可能（無制限に反復可能な必須項目）
16	備考	設定内容等に関する補足事項。

(メッセージフォーマットの記載事項)

非ISO電文（論理項目名にISOメッセージのMessage Itemを用いるケース）

項番	項目	説明
1	メッセージ名	メッセージ（送受信電文のうち、取引データ部）の名称。
2	種別	電文の種別。 「R E S」「E X 応答」「E X 一方通知」
3	帳票コード／業務処理区分コード	帳票コード。
4	名前空間	業務データにおけるBody要素の子要素以下の名前空間。業務データルート要素の属性および属性値として設定する。
5	メッセージのバージョン	メッセージの現在のバージョン情報（初期値は“01”）。メッセージ識別要素のver属性の属性値として設定する。
6	論理項目名	メッセージ上の入出力要素の名称（可能な範囲でISOメッセージのMessage Itemを用いているため、英字表記。日銀ネット端末の画面・帳票上の項目名とは一致しない）。
7	階層	メッセージ上のタグの階層。最上位層（“1”）は業務データルート要素(Gdata)。
8	物理項目名	論理項目名に対応する物理項目名（可能な範囲でISOメッセージのXML Tagを利用）。入出力要素のタグ名と同一となる。なお、入出力要素が複数階層で構成されている場合、最下層に対してのみ値を設定する。
9	物理データ型	物理項目名に対応するデータ型（Simple Typeには、可能な範囲でISOメッセージのData Typeを利用）。
10	Or	同一階層に位置する複数の異なる入出力要素（波括弧で囲まれた要素）について、いずれか一つのみが設定可能であることを示す。 なお、同一階層に1つしか入出力要素が存在しない場合も、choice要素の子要素については「Or」を記載する。
11	Mult.	入出力要素の出現回数。 ・[0..1]：入出力要素が0回または1回のみ出現（反復不可能な任意項目） ・[0..m]：入出力要素が0回以上m回以下まで出現可能（有限回反復可能な任意項目、m：1以上の整数） ・[0..n]：入出力要素が0回以上、出現可能（無制限に反復可能な任意項目） ・[1..1]：入出力要素が1回のみ出現（反復不可能な必須項目） ・[1..m]：入出力要素が1回以上m回以下まで出現可能（有限回反復可能な必須項目、m：1以上の整数） ・[1..n]：入出力要素が1回以上、出現可能（無制限に反復可能な必須項目）
12	参考：画面・帳票上の項目名	各論理項目名に対応する日銀ネット端末の画面・帳票上の項目名。
13	備考	設定内容等に関する補足事項。

(メッセージフォーマットの記載事項)

ISO電文

項番	項目	説明
1	メッセージ名	メッセージ（送受信電文のうち、取引データ部）の名称。
2	種別	電文の種別。 「送信」「RES」「EX応答」「EX一方通知」
3	帳票コード／業務処理区分コード	送信電文の場合は業務処理区分コード、RES電文またはEX電文の場合は帳票コード。
4	名前空間	業務データにおけるBody要素の子要素以下の名前空間。業務データルート要素の属性および属性値として設定する。
5	メッセージのバージョン	メッセージの現在のバージョン情報（初期値は“01”）。メッセージ識別要素のver属性の属性値として設定する。
6	対応するISOメッセージ	利用するISOメッセージのBusiness Area、Message NumberおよびVariant Numberの組合せ。 例：pacs.008.001
7	ISO-version	複数バージョンのISOメッセージで構成される電文については、各MBBが属するISOメッセージのversionを記載（単一バージョンのISOメッセージで構成される電文は「-」を記載）。ただし、一部のMBBでは、ISOメッセージを利用しない日銀ネット独自の項目について「-」を記載。
8	Index/(Ref)	MDRに準拠する電文については、対応するISOメッセージのMessage ItemのIndex。括弧付の場合はEnd PointのRef。ISOメッセージを利用しない日銀ネット独自の項目およびCBPR+に準拠する電文については、「-」を記載。
9	Message Item	対応するISOメッセージのMessage Item（論理項目名に相当）。日銀ネット独自の項目の場合は、ISOメッセージを参考に付与。
10	階層	メッセージ上のタグの階層。最上位層（“1”）は業務データルート要素(Gdata)。
11	<XML Tag>	対応するISOメッセージのMessage Itemのタグ名（物理項目名に相当）。日銀ネット独自の項目の場合は、ISOメッセージを参考に付与。
12	Message Item Type	対応するISOメッセージのMessage ItemのMessage Item Type（物理データ型に相当）。日銀ネット独自の項目の場合、ISOメッセージを参考に付与。
13	Or	同一階層に位置する複数の異なる入出力要素について、いずれか一つのみが設定可能であることを示す（波括弧は記載していないため、Orの範囲はISO20022のMDR、CBPR+またはそれらのスキーマ参照）。 なお、同一階層に1つしか入出力要素が存在しない場合も、choice要素の子要素については「Or」を記載する。
14	Mult.	入出力要素の出現回数。 ・[0..1]：入出力要素が0回または1回のみ出現（反復不可能な任意項目） ・[0..m]：入出力要素が0回以上m回以下まで出現可能（有限回反復可能な任意項目、m：1以上の整数） ・[0..*]：入出力要素が0回以上、出現可能（無制限に反復可能な任意項目） ・[1..1]：入出力要素が1回のみ出現（反復不可能な必須項目） ・[1..m]：入出力要素が1回以上m回以下まで出現可能（有限回反復可能な必須項目、m：1以上の整数） ・[1..*]：入出力要素が1回以上、出現可能（無制限に反復可能な必須項目）
15	参考：画面・帳票上の項目名	各Message Itemに対応する日銀ネット端末の画面・帳票上の項目名。隅付き括弧（【】）の項目は、画面・帳票上に存在しない項目。
16	備考	設定内容等に関する補足事項のほか、以下に掲げる事項等。 ・スキーマ上は設定任意であるが、日銀ネットのルール上は設定必須の項目には「設定必須」と記載 ・BICコードを設定・出力する項目には「BICコード」と記載 ・日銀ネット端末の画面とメッセージフォーマットが一対一で対応しない項目の補足事項を記載（例：繰返し1～6回目の項番N<N：InstructionInformationの項番>はそれぞれ画面上の項目「INFORMATION1」～「INFORMATION6」に対応） ・金融機関等コード（金融機関等店舗コードも同様）について、BICコードか日銀コードのいずれかを出力する項目には、「BIC選択先の場合、金融機関等コード（BICコード）を出力」または「BIC選択先でない場合、金融機関等コード（日銀コード）を出力」と記載。ただし、この場合、出力対象の金融機関等（店舗）について、BICコードが登録されていない場合には、日銀コードを出力する ・各要素の設定条件または出力条件

メッセージ名	共通エラー情報	種別	R E S E X 応答	帳票コード/ 業務処理区分コード	E***-*****	名前空間	http://www.boj.or.jp/bojnet/product/gCm/ver01
--------	---------	----	-----------------	---------------------	------------	------	---

メッセージのバージョン	01
-------------	----

データ項目															
項番	論理項目名	論理データ型	階層	物理項目名	物理データ型	桁数			値範囲		形式	Or	Mult.	備考	
						JUST	最小	最大	最小	最大					
1	業務データルート要素	-	1	Gdata	Gdata-CT6	-	-	-	-	-	-	-	[1..1]		
2		-	2	oE0001	oE0001-CT1	-	-	-	-	-	-	-	[1..1]		
3		エラーメッセージ	可変長全角	3	ermssj	Max32String	-	1	32	-	-	-	-	[1..1]	
4		補足メッセージ	可変長半角	3	hskMssj	Max6String	-	1	6	-	-	-	-	[0..1]	

メッセージ名	共通受付済応答		種別	RES	帳票コード／ 業務処理区分コード	Z***-*****	名前空間	http://www.boj.or.jp/bojnet/product/gCm/ver01
--------	---------	--	----	-----	---------------------	------------	------	---

メッセージのバージョン	01
-------------	----

データ項目														
項番	論理項目名	論理データ型	階層	物理項目名	物理データ型	桁数			値範囲		形式	Or	Mult.	備考
						JUST	最小	最大	最小	最大				
1	業務データルート要素	-	1	Gdata	Gdata-CT8	-	-	-	-	-	-	-	[1..1]	
2		-	2	oZ0001	oZ0001-CT1	-	-	-	-	-	-	-	[1..1]	
3		業務処理区分名	可変長全角	3	gyumShrKbnMi	Max30String	-	1	30	-	-	-	-	[1..1]

メッセージ名	通常再送	種別	送信	帳票コード/ 業務処理区分コード	008201	名前空間	http://www.boj.or.jp/bojnet/product/g00/ver01
--------	------	----	----	---------------------	--------	------	---

メッセージのバージョン	01
-------------	----

データ項目															
項番	論理項目名	論理データ型	階層	物理項目名	物理データ型	桁数			値範囲		形式	Or	Mult.	備考	
						JUST	最小	最大	最小	最大					
1	業務データルート要素	-	1	Gdata	Gdata-CT444	-	-	-	-	-	-	-	-	[1..1]	
2	メッセージ識別要素	-	2	i008201	i008201-CT1	-	-	-	-	-	-	-	-	[1..1]	
3	メッセージRefID	-	3	MsgRefID	MessageRefIDType	-	-	-	-	-	-	-	-	[1..1]	
4	金融機関等店舗コード	固定長半角	4	BKBRcode	BKBRcodeType	7	-	-	-	-	X999999	-	-	[1..1]	再送の対象となる元電文の/共通ヘッダ/メッセージRefID/金融機関等店舗コード
5	CPU接続制御コード	固定長半角	4	CPUcode	CPUcodeType	3	-	-	-	-	-	-	-	[1..1]	再送の対象となる元電文の/共通ヘッダ/メッセージRefID/CPU接続制御コード (形式はXXX。元電文を日銀ネット端末で受信した場合、“***”)
6	システム区分	固定長半角	4	SysCat	SysCatType	3	-	-	-	-	XXX	-	-	[1..1]	再送の対象となる元電文の/共通ヘッダ/メッセージRefID/システム区分
7	窓口番号	固定長半角	4	RouteNo	RouteNoType	3	-	-	-	-	999	-	-	[1..1]	再送の対象となる元電文の/共通ヘッダ/メッセージRefID/窓口番号
8	処理通番	固定長半角	4	Number	NumberType	7	-	-	-	-	9999999	-	-	[1..1]	再送の対象となる元電文の/共通ヘッダ/メッセージRefID/処理通番
9	運用日付	固定長半角	4	Date	DateType	8	-	-	-	-	99999999	-	-	[1..1]	YYYYMMDD (西暦) 再送の対象となる元電文の/共通ヘッダ/メッセージRefID/運用日付
10	メッセージ区分	固定長半角	4	MsgCat	MsgCatType	3	-	-	-	-	XXX	-	-	[1..1]	RES電文の場合：“RPL” EX電文の場合：“NTF” 再送の対象となる元電文の/共通ヘッダ/メッセージRefID/メッセージ区分